

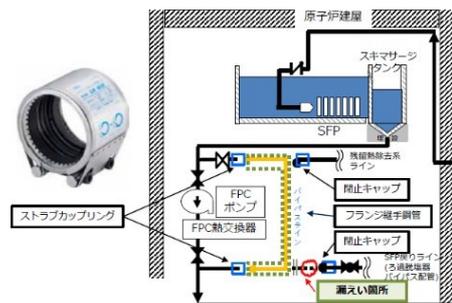
#### (4) 1F-2号機F P Cバイパスライン設置における被ばく低減対策

場 所		分 類		被ばく低減対策事例	番号
原子炉建屋内	RB	1	時間		
タービン建屋内	TB	2	距離		
R Zone	R	3	遮へい		
Y Zone	Y	4	線源の除去		
G Zone	G	5	遠隔、ロボット化		
その他 ( )	Z	6	汚染拡大防止		
		7	その他		
作業場所	2号機 原子炉建屋 3階 F P C 熱交換器室				
概 略	2号機SFPスキマサージタンク水位低下事象への緊急対応として、原子炉建屋3階にF P Cバイパスラインを設置した。				
評 価 (定性 定量)	効 果		対策前	対策後	
		被ばく線量(mSv)	1330.58	490.66	
		人工数(人日)	—	—	

#### 事例詳細

被ばく低減対策として、以下の項目を実施した。

項 目	概 要
1 自動化・遠隔化	監視カメラ・インターホンの活用
2 低線量エリアの活用	タービン建屋1階の低線量率エリアに現場本部を設置 原子炉建屋3階CRD補修室を一時的な待機場所として活用
3 遮へい	F P C熱交換器室内のスポット線源に遮へいを設置
4 アクセスルート	現場本部からFPC熱交換器室までのアクセスルートを選定し、LED照明で識別表示を実施
5 工法の改善	配管施工を従来の溶接工法からストラブカップリング工法へ変更 原子炉建屋1階から2階への足場材運搬を揚重機にて実施
6 モックアップ	防護装備を着用して各作業のモックアップを実施
7 その他	線量表示器、イルミネーションチューブの設置、 ハイグリップ長靴の採用



出典：東京電力ホールディングス株式会社

編集：東芝エネルギーシステムズ株式会社